

# 県中教育

## 随想

### 邂逅(かいこう)、そして、跋文(ばつぶん) 県中教育事務所 次長(業務担当)兼学校教育課長 富岡 信



昔、福島市出身の詩人 長田弘さんの「邂逅(めぐりあい)、共にすることは奇跡である」というエッセイを読んだ。これまで、教育を共にする人たちのたくさんの出会いがあった。不思議とどこかつながっていて、ひとりではないと勇気づけられる。人との出会いは奇跡で大切にしたいものだと思ってしまう。

教員としてのスタートはいわき市の千人を超す大規模校。多くの先輩との出会い・教えが宝物である。新任教頭もいわき市。たくさん飲んで話をした諸先輩との再会はとも力になった。赴任の挨拶に学年主任だった先生の自宅に行く、病気で寝込んでおられた。しかし、今年の年賀状には「やっと九十二歳、こ

れからもチャレンジ」と書かれていた。新年早々力をいただいた。

母校にも勤務した。昔教えていただいた先生方との再会。中学校時代が楽しく、教員になろうと考えたその教室の担任になった感激。そして、中学時代担任だった先生が校長として赴任し、また一緒に同じバスに乗り修学旅行に行つたのは、まさに奇跡である。

教育事務所内の学習会で、担当の管理事務が必携の前文にある教育法令改正ウオッチングの解説から始めた。さすが視点が違うと感心した。同時に、二つ前の教職員関係係ハンドブックの最後に書かれていた跋文を鮮明に思い出した。初めて読んだとき鳥肌が立った跋文である。

教育センターの指導主事時代、ハンドブックの改訂で跋文がなくなり、その跋文のコピーをみんなで読み直した。そして、中心になって跋文を書かれた先生が所長として赴任された。話術が巧みで、講話ではいつも中身の濃い話を聞くことができ、いつの間にか時間になっていった。跋文について詳しく話を聞いたのも奇跡である。

毎朝通勤途上、石川町役場にあるスローガンを見る。「すべては子どもたちの未来のために」。これからの出会いを大切に、この希望に向かつて共に励んでいきたい。

跋文を振り返れば、焼け跡のバラックの四角い青空を目を薄く、高く見上げていた児童がいました。(中略)教育は人間的な営みです。人間的な営みであるがゆえに、もたらされる成果があり、克服すべき課題が生じます。教職員として、その事実を、私たち自身の身に即して、まっとうに受け止めたいと考えます。(中略)そして今、眼前のこの子どもたちを決して裏切らないようにしようではありませんか。(中略)成長するということにかかわり続ける教職員として想い起こしたのです。ドストエフスキ「未成年」の、その希望の末文を。「時代はつねに未成年によつて創造されるものなのですから」

編集・発行  
福島県教育庁  
県中教育事務所

発行責任者  
石幡 良子

編集協力  
県中市町村教委連各支会  
県中各地区小中学校長協議会

## 子どもたちの心に響く「エール」

### 平田村教育委員会教育長 有賀 真道



朝ドラ「エール」は地区平均視聴率三割を超える記録を残して終了。オリンピックの延期やコロナウイルス感染症に沈む中、福島県民に大きなエールを贈ってくれました。

放映中、村出身者から古関氏作曲の校歌の有無を尋ねられました。残念ながらその期待に応えることはできませんでした。しかし、誰が作ったかに関わらず、校歌は心を動かし大きな役割を果たすものです。ひらた清風中開校の際、それを強く感じました。

統合の一番の課題は、子どもたちの心を一つにし、学校を創り上げる機運を高めることでした。様々な交流を行いました。最も子どもたちの心を動かしたのは合同の校歌練習です。校歌は福島市出身の詩人、故長田弘氏が作詞。「さあ始めようわたしたち」

「新しい自分たちを見つけて」と呼びかけるフレーズ、メロディが子どもたちを惹きつけました。作曲の池辺晋一郎氏は「この歌詞の出だしにワクワクし、平田村の風景を思い出しながら作曲した」と記しています。両校の子どもたちが一堂に会し、繰り返し声を合わせていくことよつて緊張を解き、統合への不安を払拭し、意欲に満ちていく様子を目の当たりにしました。

「統合のことを考えると思わず校歌を口ずさんでしまう。」統合前にすっかり校歌は子どもたちのものとなり、開校式で池辺氏の指揮のもと、自信をもつて堂々と歌いあげる姿に頼もしさを感じました。

激動の昭和の時代、古関メロディは多くの人々にエールを贈ってきました。今、コロナ対策のため校歌が歌いにくい状況がありますが、こんな時だからこそ、様々な工夫によつて校歌を子どもたちの心に根付かせ、愛着をもたせていきたいのです。校歌がこれからも、子どもたちの心に響く「エール」であり続けられることを願っています。

### 国専業推進校紹介 道徳教育推進校として

#### 浅川町立浅川小学校

本校は、道徳教育総合支援事業の推進校として、「道徳的価値に向き合い、共によく生きるために問い続ける子ども」を研究主題とし、研究に取り組んできた。多数の講師の先生方に、提案授業を行って頂き、それらを基に、様々な指導・助言を得てきた。校内授業研究を十二回行い、道徳科の授業づくりや授業改善、道徳の評価についての研修を重ねてきた。七月の授業参観では、道徳科の授業を全学級で公開した。

十一月四日には、低・中・高学年の三学級の研究公開を行った。思考ツールを使って、自分の考えを表出したり、可視化したりして、自分と友達との考えの違いに気付かせることができた。また、話し合い活動において友達への考えの変化を可視化したり、振り



返りを十分に行ったりすることで、一人一人を受け止めた。

これまでの実践で、教師自身の児童への言葉掛けが変わり、児童も安心して自分の考えを発表したり、友達への考えに素直に賛同する気持ちを伝えたりする場面が見られるようになってきた。また家庭・地域との連携にも取り組んできた。月に一度、道徳フェアイルを持ち帰らせたり、学校だけでなく、家庭に道徳科の取組や道徳アンケートの結果を知らせたりした。



この取組により、道徳科の学びが家庭での話題になっていることは大きな成果であった。

コロナ禍ではあったが、様々な制約の中で「やれることをやる」という意識で取り組んできた。先生方と子どもたちが、共に考え、悩み、共感し合っている場面に多く出会えた。その姿こそが「共によくよく生きていく子どもの育成」に向かっている姿だと感じた。今後も、子どもたちの思いや願いに寄り添い、一人一人の道徳性を高める授業を実践し続けていきたい。

### 文科省専業推進校紹介 つながる食育推進校として

#### 三春町立中郷小学校

今年度、本校では「学習・家庭・地域をつなぐ食育」をテーマに取り組んでいます。「学習」とは、教育課程全体で食との関連を整理し、食育のねらいを達成できるように指導計画を修正しています。また、校地内の畑を整地し、土作りから収穫体験までを各教科や給食とつないで取組を積み上げていきます。

「家庭とつなぐ食育」では、ホームページやたよりなどで子どもたちが体験や見学で学んだことを家庭へ伝えたり、給食試食会への参加を募ったりしています。また、ワークシートには、児童が調べたことへの感想や励ましのコメントも記され、親子のつながりも深まっています。

「地域とつなぐ食育」では、様々な体験活動で地域人材を講師として迎え、児童はより深く地域について学ぶことができました。特に、校地内での栽培活動、地域のブルーベリー園、ピーマン選果場の見学学習では、中郷地区の特産

物や生産者と直接触れ合い、地域の方の優しさに感動しました。

今年度、学習・家庭・地域をつないで食育を推進する取組の中で、「給食」が重要な役割となっていたことも実践の成果といえます。畑で栽培した食材や各教科等で学んだ地場産物を給食に出して味わうことで、子どもたちの食材への興味や生産者への感謝につながりました。今後も楽しく学校・家庭・地域で「つながる食育」を推進してまいります。

### 食育の取組

#### 三春町立三春中学校

平成二十九年年度から文部科学省の「つながる食育推進事業」の指定を受けて取り組んでいます。本県・本校の健康課題を踏まえてテーマを「つながる食育」生徒の『今』、そして『未来』につながる食に関する指導」として取り組んできました。

#### 一 実践内容

- (1) 学校の学びを家庭につながる「トリセツ」の作成

健康な生活を送るため、BDHQや体組成計の結果

を用いて自分自身と家族で共有できる「トリセツ」を作成しました。トリセツは家庭で親と子が食を考える重要なツールとして活用しています。

- (2) 学校給食を食事摂取の目安とする取組  
身体測定の結果を食事摂取基準につなげ、望ましい給食量が提供できるようにしています。栄養バランスのよい食事がわかるよう、主菜、副菜、汁物を明確にした献立を提供しています。
- (3) 自分手帳の活用  
毎月十九日の朝に「自分手帳」記入の時間を設定しています。健康面から自身を振り返り、体力テストの結果や食育・保健指導の記録、体組成計の結果からの実態を把握させ、保護者への啓発を行っています。

#### 二 成果と今後の取組

- (1) 給食を食事摂取の目安量として給食の時間に計量器を用い配膳指導を行った結果、瘦身傾向児の出現率が減少しました。
- (2) 活動量が減り肥満傾向にある冬場においては、ダンスなど生徒が楽しく運動できる場を設定する予定です。



県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課 社会教育担当より

「読書活動支援者育成事業」研究集会

本事業は、子どもに読書環境を充実させ、子どもに読書を通して読書習慣を形成する望ましい読書習慣を形成することをねらいとして実施してまいります。今年度は地域で読書活動を進めるボランティアグループや各学校の先生方、学校の先生方などを対象に、学校開放日(火)郡山市立中央公民館、講話、実践発表、講話、演習の三部構成とし、講話では、絵本「かっぱのすりばち」の著者佐藤修氏より、「かっぱのすりばち」その前後の演題で講話をいただきました。

「ふくしまを十七字で奏でよう」絆ふれあい支援事業

本事業は、子どもたちの豊かな心を育むために、平成十四年度より実施しています。夏季休業が短縮される中、県全体では三万九千四百組、県中域内からは八千二百八十二組の応募がありました。審査の結果、県中域内からは最優秀賞二組、優秀賞二組、佳作一組が入賞しました。また、学校賞として十二校、奨励賞として十二組を県中教育事務所より表彰しました。今年度も心温まる作品や夢や希望あふれる作品を多数御応募いただきました。

【最優秀賞】(復興部門)

- 「夜ノ森の桜並木に 集う人」 希望満ち 桜トンネル 行健小 五年 水島 水島 風 母 水島 亜弥香 「わあきれい はじめてのうみ」 この記憶 永遠にやさしい たまかわクックの森 ままであれ 父 年長 太楽 孝宏 母 太楽 孝宏

【学校賞】

- 郡山市立金透小学校 天栄村立船本小学校 三春町立三春小学校 小春町立小石川小学校 須賀野町立須賀野小学校 須賀川町立須賀川小学校 須賀川町立須賀川小学校 平賀川町立清風中学校 浅川町立清風中学校 玉川町立清風中学校

学校教育課 指導担当より

SSRの実践を生かした不登校支援について

県中地区では、今年度から郡山市立行健中学校、郡山市立柴宮小学校、須賀川市立第二中学校の三校でスペシャリストサポートルーム(SSR)の実践がスタートしました。SSRとは、不登校及び不登校傾向の児童生徒の居場所づくりや抱えている課題への支援を目的に、校内に設置する適応指導教室のことです。三校の実践校では、温かい雰囲気、机の教室環境を整え、子どもたちに自己選択させながら学習支援や生活支援を行っています。

学校教育課 管理担当より

学校における講師等の任用について

令和二年度からの改正地方公務員法施行により、会計年度任用職員が法制化されたことに伴って、講師等の任用が整理されました。あらためて種別と任用形態を確認していただくと思います。○任期付職員 任用可能で三年以内の任期付職員で三年以内の任期付職員を担任する。任用可能で三年以内の任期付職員を担任する。○(本人に通知)のみとなり。任用可能で三年以内の任期付職員を担任する。○(本人に通知)のみとなり。任用可能で三年以内の任期付職員を担任する。○(本人に通知)のみとなり。任用可能で三年以内の任期付職員を担任する。

総務社会教育課 総務担当より

所得税は正について

年末調整で配偶者控除や扶養控除の適用となる扶養親族等に該当しない人を申告するなど、誤って扶養控除等を受けているケースが毎年見受けられます。令和二年度に税務署から、管内で十四件約七十七万円の追加徴収の是正指示がありました。

最も誤りが多いケースは、配偶者や大学生等の子どもにアルバイト等で一定の所得金額があるにもかかわらず、職員本人がその金額を把握していなかったことによるものです。

また、他の所得者と重複して同じ子ども等を扶養親族として控除していた事例もあります。

扶養申告が誤っていた場合、過去五年間に遡りして調査するほか、不足分の所得税の徴収・納付などの手続きが必要となり、住民税や扶養手当等にも影響する場合がありますので、配偶者や扶養親族の正確な所得額の把握について、御協力をお願いします。

本事業は、子どもに読書環境を充実させ、子どもに読書を通して読書習慣を形成する望ましい読書習慣を形成することをねらいとして実施してまいります。今年度は地域で読書活動を進めるボランティアグループや各学校の先生方、学校の先生方などを対象に、学校開放日(火)郡山市立中央公民館、講話、実践発表、講話、演習の三部構成とし、講話では、絵本「かっぱのすりばち」の著者佐藤修氏より、「かっぱのすりばち」その前後の演題で講話をいただきました。

